

(様式第3号)

政務活動報告書

会派名 (会派未来ネット)

活動事項	行政視察
活動年月日	令和7年1月14日(火)～令和7年1月16日(木)
場所	延岡市・都城市・鹿児島市
活動の相手	同上
参加議員名	勝田鮮二・米村京子・長坂則翁
目的・内容 ・結果等	<視察項目> 延岡市 ・延岡市駅前複合施設エンクロスについて 都城市 ・中心市街地中核施設「Mall mall」について 鹿児島市 ・観光農業公園「グリーンファーム」について <所見等> 別紙のとおり
関連する 支出伝票番号	30・31・33

視 察 報 告 書（委員用）

2025 年 2 月 3 日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会 会派“未来ネット”

勝田 鮮二



令和 7 年 1 月 14 日から令和 7 年 1 月 16 日まで鳥取市議会 会派
“未来ネット”の一般行政視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり
報告します。

記

1 月 14 日（火曜日）・・・（15：00～16：30）

住所；宮崎県延岡市駅前幸町 3 丁目 4 2 6 6—5

人口；111, 420 人

世帯数；51, 009 世帯 面積；868.02 k m²

議員；27 名 市制施行；昭和 8 年

面会者；延岡市議会事務局 政策・調査係）総括主任 日高菜保子 様

商工観光文化部 商業・駅まち振興課

駅まち振興係 佐藤健央 様 他 1 名

視察項目 ；＜延岡市駅前複合施設“エンクロス”の取り組みについて＞

市民活動と BOOK&CAFÉ を軸とした新しいコミュニティーセンター

エンクロスとは⇒延岡の「延（えん）」と、人と人との「ご縁」をかけ、たくさん
の人が出合い、縁を交差させ、行き交う場所になるようにと思い
が込められている。との事。

指定管理者（運営）⇒CCC（カルチュア・コンビニエンス・クラブ）

敷地面積；8, 878.69 m² 延床面積；1, 659.54 m²

竣工年；2018 年

構造；RC 造、PC 造一部 S 造

開館時間；午前 8 時～午後 9 時まで（待合スペースのみ午前 5 時から会館）

休館日；年中無休

延岡駅前複合施設「エンクロス」は、市民活動と BOOK&CAFÉ を軸とし
た新しいコミュニティーセンターで、市民やスタッフによる

活動が月間70回ほど開かれていて、多くの交流が生まれている。

CCCは、2014年10月に延岡市と連携を開始⇒2016年7月に指定管理者として、駅前複合施設の管理、運營業務を受託。市から求められたのは、街の賑わいづくりと活性化。延岡らしい賑わい創出の方法とは何かを考え、9つの提案した。

- ① 365日年中無休、朝8時から夜9時まで、いつでも開いている公共施設
- ② 東九州、最大のBOOK&CAFÉ
- ③ 利用する人それぞれに、居場所がある・居心地が良い空間があること
- ④ 多様なイベントが日々行われていること
- ⑤ 市民活動を、オープンな空間で行えること。市民が発表するハレの場となること
- ⑥ 子どもと女性に優しい施設であること
- ⑦ 延岡の情報発信ステーションになること
- ⑧ 地域の良いものを、しがらみなく厳選して届けること
- ⑨ 駅の待合いスペースとして、快適に使ってもらうこと

コンセプトは「新しく自由のあるまち」

「エンクロス」は、公共交通機関の待合いとして、本が自由に読める図書閲覧スペースとスターバックスコーヒーを利用できるBOOK&CAFÉとして、趣味や子育ての場として、様々な目的に合わせ誰もが自由な発想で、自由な時間を過ごすことが出来る場所！となっている。

オープンから2年半⇒2020年9月末。来館者数⇒271万人！

↓

市民活動と自主企画⇒累計1,951回

↓

市民活動の活動登録件数⇒215件

↓

「エンクロス」を含む{延岡駅周辺整備プロジェクト}

↓

2020年度グッドデザイン賞「金賞」を受賞

<課題>

- ・ 高齢化、人口減少でも、賑わいづくりを今後も継続維持していくための、イベントや企画開発をさらに充実させること。多くの人達の意見を聞き研究・検討をして行くこと。

<所見>

- ・エンクロスに置いている書籍は、市民ワークショップでの意見を参考にえらんでおられ、列車の発車を待つ間に、パラパラとめくって気軽に読める趣味や生活に密接本。さらに DIY や手芸に関する本を置くなどして、活動しやすい環境を整える工夫があり、大いに参考となった。
- ・図書とC A F Eそして土産物売り場、子どもスペースなど融合されており学生や駅利用者のスペースとして、魅力を感じた。
- ・子育て世代・若者など雨が降っても、安心して利用出来、本市の今後の活動に参考としたい。



1月15日（水）・・・宮崎県都城市（13：30～15：00）

住所；都城市姫城町6街区21号

人口；159,528人 世帯数；73,760世帯 面積；653.36k㎡

議員；29名 電話；0986-23-7869

市制施行；大正13年2月11日

面会者；商工部商工政策課）藤澤主査様、都城市立図書館）井上館長、
議会事務局）太田主査様

都城市の概要；平成18年1月1日～1市4町が合併し、新都城市が誕生。これまでも、都城北諸県広域市町村圏事務組合を設立し、消防や救急業務、ごみ処理などを共同で実施するなど、広域的な地域づくりを展開してこられた。

少子高齢化の進展や地方分権、車社会、通信情報手段の進展や生活様式の変化などにより、広域的なまちづくりへのニーズが高まり、平成16年2月に枠組みによる合併協議会を結成され、新たなまちづくりの為の協議が行われた。

南九州では、鹿児島市、宮崎市、に次いで3番目の人口。面積においても、県内第2位となっている。

視察項目 <中心市街地・中核施設「M a l l m a l l」（まるまる）について>
（現地視察）

① 施設の概要

「M a l l m a l l」とは、都城市が平成26年から整備を進め、平成30年4月28日に開館した複合施設の愛称。

都城市駅よりタクシーで7分位の中心市街地において、百貨店や郵便局が撤退し、そこを市が買い取り、カフェや図書館の知的活動拠点、コワーキングスペース・セミナールーム・多目的スペース・まちなかキッチン・多世代が交流できる拠点施設、年間を通して多彩なイベントを展開し、まちなかに新たな賑わいを創出できる屋根付きの多目的広場などを有し、圏域の多くの市民が利用している。

② 利用者の実績と評価

- ・図書館とイベント広場を核に、初年度は190万人、その後年間200万人を集客。
- ・子育て支援センターは、市内市外に関わらず、誰でも無償で利用できるため利用者が多い。
- ・市民であれば、有償で一時預かりが利用でき、併設されたスーパーマーケットや乳幼児の検診にと便利ながことが評価されている。

<取り組みの成果と課題>

- ・初年度は190万人、その後年間200万人を集客。
- ・2018年度に前年度の2.6倍となった。
- ・利用者の多くは、図書館の利用者で特に中高生の利用が多く、終業後

や部活が終わった後に利用している。

- ・中高生の試験前などの繁忙期には、開館前に入場者の列ができ、学習用スペースの机など、すべてが満席になる。
- ・一日 3000 人の利用者がいるため、スペースの確保が課題である。
- ・「M a l l m a l l」（まるまる）は十分集客ができているが、周辺の商店街までは波及効果が生み出せていない。
- ・築年数が 50 年超える施設もありリノベーションしても入居することが出来ない。解体する？なかなか難しい課題なので、今後検討していく。



<所見>

- ・ イベントの回数が多く、平日でも一日 3000 人と近隣の自治体からも来館しているため入館者が減らないと聞き感心した。
- ・ スーパーマーケットや女性をターゲットにした施策、回遊性を高めるため、特に子育て世帯は傘をさす余裕がないところに着目し、屋根をつけ、傘が不要なシステムを作って(鳥取駅前のバードハットの 3 倍位)、広場で様々なイベント(古着市・食の祭り・音楽コンサートなど)を開催していて驚いた！本市も参考するべきと感じた。
- ・ 本を読んだり、買い物したり、食べたりと魅力たっぷりの施策だと感じた。本市の新しいまちづくりに参照すべきだ！と思う。
- ・ 市長自らのトップダウンで、このような中核施設が出来ており、トップの公約に盛り込んだ施策が大変重要なポイントを占めていると感じた。
- ・ イベントの開催件数➡年 200 回とし、それぞれの指定管理者に、ノルマ的に記載しているのには驚いた。一つの方法として、とても良いと感じた。

1月16日（木）・・・鹿児島市（9：30～11：00）

人口；582,998人

世帯数；286,007世帯

面積；547.07km²

市制施行；明治22年

議員；45名

住所；鹿児島市山下町11-1

☎099-216-1454

面会者；グリーンファーム）橋口園長、市議会事務局）四元様、
観光農業公園事業（グリーンファーム）の取り組みについて

（現地視察）鹿児島中央駅⇒（50分）JR喜入駅⇒タクシー（10分）

鹿児島市議会⇒観光農業公園事業（グリーンファーム）の取り組みについて

住所；鹿児島県鹿児島市喜入一倉町5809-97

☎099-345-3337

<概要>

市民の価値観が多様化する中で、都市部住民の中には、（ゆとり）（やすらぎ）（いやし）を求め農村地帯を訪れたいとする人、農村地域の文化との触れ合いを求める人、農作業体験を希望する人など、魅力を見直す人が増えつつある。こと

食生活の多様化による（安全・安心志向）（本物志向）（健康志向）など、食と農への関心の高まりを背景に、農畜産物の安心・安全の確保やブランド化が求められている。一方、平成16年11月の周辺5町との合併により、農地、森林、せせらぎなどの豊かな自然環境や黒牛・黒豚・茶・桜島小ミカン・ニガウリなど地域の特性を生かした農畜産物、地域の農産物を活用したジャム・ドレッシングなどの農産加工品など、魅力ある地域資源も増えたところである。

<目的>

農村地域の魅力ある自然、農畜産物等の資源の活用により、農業及び農村地域の活性化を図るとともに、食と農への理解や循環型農業を通じた環境への関心を高め、本市の観光に資するため、都市と農村の交流拠点として、整備した。

{事業概要}

平成18年；整備基本計画を策定

平成19年；候補地9か所から（喜入一倉地区）に選定

平成20年；基本設計等

平成21年；実施設計等

平成22年；造成工事等

平成24年；建築及び設備工事・修景工事

平成 24 年；11 月 15 日供用開始

〔総事業費〕

約 36 億円（合併特例債、約 31 億円）

〔施設概要〕

敷地面積；約 41.3ha（東京ドーム 5 個分）、標高；約 230m

（基本コンセプト・農業公園の概要）

① 施設概要～体験学習ゾーン

② 施設概要～地域交流ゾーン

③ 施設概要～民間参画ゾーン

④ 施設概要～その他ゾーン

⑤ 体験プログラム

＜ 公園利用者数＞

平成 24 年・・・年間 90,500 人・・・うち体験者数；5,450 人

平成 25 年・・・年間 209,100 人・・・うち体験者数；22,571 人

平成 26 年・・・年間 192,700 人・・・うち体験者数；30,390 人

平成 27 年・・・年間 193,000 人・・・うち体験者数；38,058 人

平成 28 年・・・年間 190,500 人・・・うち体験者数；36,399 人（シルバーウィーク）

平成 30 年・・・年間 190,600 人・・・うち体験者数；40,943 人

令和元年・・・年間 192,500 人・・・うち体験者数；39,567 人

令和 5 年・・・年間 182,200 人・・・うち体験者数；34,915 人

＜所見＞

① 広大な面積が市の保有地とは、驚いた。

② 楽しみながら学び、子どもから大人まで多彩な体験プログラムがあり、感心した。



③ 田舎で雇用が 21 人＋市職員 5 人で効率よく管理運営されている。

④ 子どもたちが農業にふれる機会を多彩なイベントとうまく組み合わせられてい

る。

⑤ 新規就農者の応援もされている。

⑥

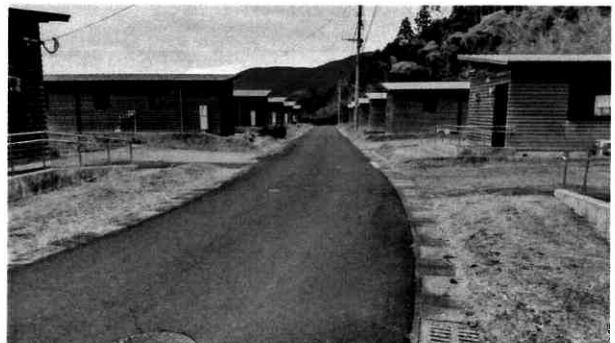
⑦ さすが、60 万人都市、近くに自然豊かな広大な土地に、様々な体験施設、場所が

確保されていて、びっくりした。

⑧ 都市部の人々が、一次産業や自然のすばらしさ大切さを知り、大変素晴らしと思った。

<所見>

- ・ 食と農への理解や循環型農業を通じた、環境への関心をたかめる努力を感じた。
- ・ 都市と農村の交流拠点として、農業公園を整備されており、冬⇒大根・スナックエンドウ、春⇒玉ねぎ、6月～夏⇒スイートコーン、秋⇒サツマイモ、黒豚ウインナーづくり、野菜パンづくり、みそづくりなど各種イベントを開催し、多くの子育て世帯を中心に集客されており、本市にも、このような施設があれば体験兼ねた人流が活発化してくると思った。
- ・ 市としては、36 億円投じており、さらに平成 29 予算ベースで、年間 1 億 2000 万円の赤字となっており、今後の事業戦略が必要と感じました。
- ・ 指定管理者も検討されているとの事だが、それで黒字には難しいと聞いた。ただ、大幅な黒字は考えていないかも？現在 20 棟ある畑付滞在型市民農園は満杯との事、この宿泊棟を増設され収益増が必要と思いました。
- ・ 今後の利用者、リピーターなど維持管理の在り方が、課題と思いました。



行政視察報告書

令和7年2月7日

鳥取市議会議長 様

会派未来ネット 米村 京子

記

令和7年1月14日（火）～1月16日（木）

宮崎県延岡市・都城市・鹿児島市

令和7年1月14日（火）延岡市

○延岡市駅前複合施設エンクロスについて

鳥取7:02 発 延岡14:07 着 7時間もかかり、このような長時間の移動は初めてだった。

エンクロスは市民活動とBOOK&カフェを軸とした新しいコミュニティーセンターで、館内の賑わいからも人と人との縁が交差する場所である。館内では静かにするのが当然と思われるが、こちらは親子が和気あいあいと過ごせて自由に話をすることができる珍しい図書館だった。女性と子どもにも優しいと思える施設で、この施設を中心に延岡市が未来に向かっていと感じられた。視察件数も多く、帰り際に関係者の方が「誇りに思う」と言っていたのが印象的であった。

令和7年1月15日（水）都城市

○中心市街地中核施設「Mallmall」について

以前あったデパートを活用した大変興味深い施設だった。図書館や子育て世代活動支援センターなどの施設の他にも、スーパーやレストランがまるを囲むように並んでおり、まさに中心市街地の中核施設として、多くの市民に有効に活用されている。鳥取駅前のバードハットと類似していると感じた。

令和7年1月16日（木）

○観光農業公園「グリーンファーム」について

平成30年に一度視察でお伺いしており、思い出深い桜島と海の景色であった。木々が生い茂り、木々の成長から時間の経過を感じた。

グリーンファームは、体験学習ゾーン・地域交流ゾーン・民間参画ゾーンに分かれており、農業に親しみ・学ぶことができる取り組みがされている。季節ごとのイベントも開催され、子どもから大人まで年齢関係なく楽しむことができる。このような施設は本市には無く、大変参考になる視察となった。以前と比べてますます繁栄し、精力的に事業を拡大されていると感じた。

以上

視 察 報 告 書

令和6年1月20日

鳥取市議会議員 星見 健蔵 様

鳥取市議会 長坂 則翁

令和7年1月14日から令和7年1月16日まで鳥取市議会「会派未来ネット」の視察に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：宮崎県延岡市

① 延岡駅前複合施設「インクロス」について

○ 事業スキーム、整備効果、周辺への波及効果等について

またインクロスの特徴

1. 365日年中無休で朝8時から夜9時まで開館（1階がスペースのみ、朝5時から開館）
2. 4万冊の本が読めるブック＆エッセーを満喫できる。
3. 約350席座席、フリーWiFi、電源席も用意している。
4. 子どもと女性が使いやすい施設として、キッズスペースやカフェなど子どもと女性を意識した機能が盛り込まれている。
5. カフェ的な空間で市民活動ができ、興味ある方々との交流を生み出せる。
6. 200以上の市民活動団体とともに、趣味や生活、子ども向け、身も心も元気になる多様なイベントが開催されている。
7. 延岡の情報を発信するステーションとして、延岡の情報を収集し、延岡の魅力を世界中に発信している。
8. 延岡100kmプロジェクトと題し、延岡を中心に直径100kmの地域特産品をPRし、販路を拡大している。

9. 1時間早く来て待っている、そんな駅舎待合スペースが
用意されている。

※ エンロスは、平成30年4月に刺殺しており、前館以来、乗客数は
平成30年度は、1,283,337人、令和元年度は、1,156,417人、令和2年度は、
699,530人、令和3年度は、936,094人、令和4年度は、916,125人、
令和5年度は、1,032,877人となっており、賑わっている。

[所見]

鳥取市は、現在鳥取駅周辺再生基本計画が策定され、
今後、鳥取駅周辺再生整備計画が策定を目指しているが、
延岡市をはじめ他都市の先進事例も大いに参考に、
鳥取駅周辺を賑わいつくりを目指さなければならぬと
考える。

宮崎県都城市

② 中心市街地中核複合施設「まるまる」について

・取組団体：都城市

・取組内容：大規模商業施設の撤退による賑わい低下に
対し、地元企業界が中心となり、跡地再生に
着手した。市との協働により、公共・民間施設を
集約した新たな核となる複合施設として整備し、
集客力アップに努めた。公民連携の取組が
功を奏している。

・推進体制：商工政策課 全担当1名（中心市街地活性化担当
係として3名）

・事業予算：総事業費（整備費）約65億円

合併特例債、都市再構築戦略事業なども活用

・取組の背景・目的：大規模商業施設の撤退した跡地が
リノベーションされ、中心市街地中核
複合施設「まるまる」が誕生した。
この施設は、都城市立図書館などを蓄え
世代活動支援センター等、複合施設
として新たな力が発揮され、中心市街地の
中核を担っている。

設置当初は年間2万人の見込みだったが、
初年度の2018年（平成30年度）だけで
度

延べ約190万人となり、見込みを大幅に
上回る集客者となっている。

。ふるふる施設の概要：図書館、未来創造ステーション

まちなか交流センター、まちなか広場

中児・小児待合所、保健センター

子育て世代等勤労支援センター（ふくみんが）

中核施設附帯駐車場

[所見]

。都城市の「ふるふる」設置に付いては、都城市長の強いリーダーシップが発揮されたいといわれている。

鳥取駅周辺再整備に付いては、深沢市長のリーダーシップが求められたいと考へる。

。鳥取駅周辺再整備に付いては、産学官の連携が極めて重要と考へる。

鹿児島県 鹿児島市

② 鹿児島市観光農業公園「グリーンファーム」について

。背景

市民の価値観が多様化する中で、都市部住民の中には、「ゆとり」、「ゆずり」や「いよし」を求め農村地帯を訪れたいという人、~~農村地域、魅力を見直す人が増えつつあり、また、食生活の~~
多様な農村地域の文化とふれあいを求める人、農業体験を希望する人など、農村地域、魅力を見直す人が増えつつあり。

また、食生活の多様化により「安全・安心指向」「水も指向」「健康志向」など、食と農への関心の高まりを背景に、農産物の安全・安心の確保もブランド化が求められている。

一方、鹿児島市は、平成6年11月の周辺5町との合併により、農地、森林、せせらぎなどの豊かな自然環境や黒牛・黒豚・黒・桜島小シカン・ニガウリなどの地域特性を生かした農産物、地域農産物を活用した加工・ドレッシングなどの農産加工品など、魅力ある地域資源も増えたところである。

。目的

このような状況を踏まえ、農村地域の魅力ある自然農産物等の資源の活用により、農業及び農村地域の活性化を図るとともに、食と農への理解や循環型農業を通じた環境への関心を高め、鹿児島市の観光・振興に資するため、都市と農村の交流拠点として、観光農業公園「グリーンファーム」が整備されている。

。施設概要

管理棟、遊具、農産物直売館、多目的広場、農園（トマト、だいこん）、環境学習棟、豚舎、鶏舎、体験用農地・作業棟、ビニールハウス、キャンプ場、遊歩道、展望所、駐車場、

○ 観光農業公園の年間利用者数の推移

平成30年度 190,600人、令和元年度 192,500人、令和2年度 154,200人

令和3年度 149,700人、令和4年度 166,400人、令和5年度 182,200人

[所見]

鳥取市においても、休耕田の活用も国や立場から、JAなどの農業団体とも連携をし、農業及び農村地域の活性化をめざし、都市部と農村部の交流拠点として、また鳥取市への誘客をめざし、規模は多少小さくとも、観光農業公園の整備を検討する必要があると考へる。